びわこ成蹊スポーツ大学における授業評価アンケート結果の報告
―2005年度後期～2007年度前期―

宮本友弘[1)]　松本格之祐[2)]　小松崎敏[2)]　佐々木直基[4)]

A Report on Student Course Evaluation Questionnaires at Biwako Seikei Sport College from the Second Semester of 2005 to the First Semester of 2007

Tomohiro MIYAMOTO　Kakunosuke MATSUMOTO　Satoshi KOMATSUZAKI　Naoki SASAKI

Abstract

The purpose of this paper is to describe overall results of student course evaluation questionnaires carried out to 262 lectures and 105 physical exercise classes from the second semester of 2005 to the first semester of 2007 and clarify the point of view toward improvement of teaching and learning in lectures and physical exercise classes respectively. The valid data had been obtained from a total of 15,283 students（75.3% of all participants）for lectures and 2,907（80.9%）for physical exercises classes through 4 semesters. From analysis of data of lectures, it was found that 11 items in questionnaire were composed of 3 factors, which were called "teacher's effort", "understanding of lectured contents", and "learning motivation", and they all had strong influences on rating of "satisfaction". There was not a marked difference in rating of all item among semesters and it showed a consist tendency as follows;（1）rating of "studying by yourself" was remarkably lower than those of other items,（2）lectures as a whole, rating of "satisfaction" have kept good level through 4 semesters,（3）when class-size was more than 150 students, rating of "satisfaction" fell drastically, and（4）comparing subject area, lectures in faculty common basic courses for major and major courses were rated higher than in general courses, department common basic courses for major, and teacher training course. On the other hand, more than 80% students positively rated to all items in questionnaire for physical exercises classes in all semesters. Most students seemed to be satisfied with lessons by skilled teachers. Based on these results, some perspectives of improvement in teaching and learning and future FD at this college were discussed

Key words：Student Course Evaluation Lectures, Physical Exercise Classes, Improvement of Teaching and Learning

1）共通教職科目群　2）生涯スポーツ学科　4）競技スポーツ学科

１．目的

びわこ成蹊スポーツ大学では，授業改善を目的に開学の2003年度から学生による授業評価アンケートに取り組み，2005年度後期から全学的な運用を開始した。2006年度前期までの概要は宮本・山口（2007）で報告されているので，本稿ではまず，それ以降の取り組みについて述べる。

2006年度後期からは，非常勤講師の担当科目も授業評価アンケートの対象に加えた。さらに，同年度に初めて開講された「卒業研究」について，学生用，及び，教員用の評価票を作成し，その評価を行った[1)]。

2007年度前期は，学長主導のもと授業評価を含めたFD（Faculty　Development）の全学的な実施体制の強化が図られ，それまでのワーキング・グループを統合して新たにFD委員会が設置された[2)]。また，毎時間担当者が変わる「スポーツ学入門」「生涯スポーツ入門」「競技スポーツ入門」，及び，同年度からの新カリキュラムにおいて初年次教育の一環として開設された「教養演習Ｉ」のそれぞれに対して個別の評価票を作成し，それらの評価を行った[3)]。

このように2006年度後期以降，演習・実習等の一部の科目を除き，ほとんどの講義科目，及び，実技科目において共通フォーマットによる授業評価アンケートが実施されるに至り，また，共通フォーマット適用外の授業科目についても適宜，専用の評価票を作成することによって，授業評価の拡充を図ってきた。

以上を踏まえ，本稿では，共通フォーマットによる授業評価アンケートを全学的に開始した2005年度後期から2007年度前期までの全体的な結果について，講義科目，実技科目それぞれで要約し，授業全般の特徴，及び，改善点を探ってみたい。なお，宮本・山口（2007）は2005年度後期と2006年度前期の結果について同様の検討を行ったが，両セメスターのデータを込みにして分析しているため，本稿ではあらためてセメスターごとに再集計し，2005年度後期から2007年度前期までの４セメスターの比較を行う。

２　方法

（１）調査対象

各セメスターの共通フォーマットによる授業評価アンケートの実施科目数（同一教員が同一科目を別時限に担当している場合は別科目とみなす）を表１に示す。なお，前記の通り，2005年度後期と2006年度前期は専任教員が担当する科目のみを対象としている。

（２）調査票

調査票は講義科目用と実技科目用ともに教示文，評定項目，自由記述からなる。回答の記入は別紙のマークシートに行う。回答は無記名とした。

表1　授業評価アンケートの実施状況

		科目数	履修者数	有効回答数	有効回答率（%）
講義科目	2005年度後期	59	4,792	3,595	75.0
	2006年度前期	44	3,821	3,123	81.7
	2006年度後期	80	5,986	4,352	72.7
	2007年度前期	79	5,701	4,213	73.9
実技科目	2005年度後期	17	606	521	86.0
	2006年度前期	27	949	766	80.7
	2006年度後期	18	631	474	75.1
	2007年度前期	43	1,409	1,146	81.3

表2　評定項目

講義科目用	
Q 1	あなたは、この授業の内容を理解できましたか（内容の理解）
Q 2	あなたは、この授業の内容に興味がもてましたか（内容への興味）
Q 3	あなたは、この授業を妨げるような行為（私語、携帯電話の使用など）はつつしむよう心がけましたか（妨害行為の慎み）
Q 4	あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか（意欲的取り組み）
Q 5	教員の説明はわかりやすかったですか（教員の説明）
Q 6	あなたにとって、この授業の課題や内容のレベルは適切でしたか（課題・内容のレベル）
Q 7	板書、書画カメラ、ビデオ、パワーポイントなど、プレゼンテーションの仕方は適切でしたか（プレゼンの仕方）
Q 8	テキストや配布物など、教材は授業内容の理解に役立ちましたか（テキスト・配布物）
Q 9	教員の授業に対する熱意や意欲が感じられましたか（教員の熱意・意欲）
Q10	あなたは、この授業に関する自学自習をどの程度しましたか（自学自習）
Q11	あなたは、この授業で学んだことをもっと深めたいと思いますか（探求意欲）
Q12	あなたは、この授業に満足していますか（満足度）
実技科目用	
Q 1	あなたは、この授業で、運動に関する理解が深まりましたか（運動に関する理解）
Q 2	あなたは、この授業で、運動技能が向上しましたか（運動技能の向上）
Q 3	あなたは、この授業で、グループの仲間と楽しく活動できましたか（グループ活動）
Q 4	あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか（意欲的取り組み）
Q 5	教員の説明はわかりやすかったですか（教員の説明）
Q 6	あなたにとって、この授業の課題や内容のレベルは適切でしたか（課題・内容のレベル）
Q 7	この授業で行われた施設や使用した用具に満足できましたか（施設・用具）
Q 8	あなたが授業に取り組む上で、板書の内容や資料は役立ちましたか（板書・資料）
Q 9	教員の授業に対する熱意や意欲が感じられましたか（教員の熱意・意欲）
Q10	あなたは、これまでの授業中で、先生から助言を受けたり褒められたりしたことがありますか（教員からの助言）
Q11	この授業は、安全に配慮された授業だと感じましたか（安全面の配慮）
Q12	みんなが授業を楽しむことができるように工夫されていたと思いますか（授業の工夫）
Q13	運動をしている時間が十分にあったと思いますか（運動時間）
Q14	あなたは、この授業に満足していますか（満足度）

（注）カッコ内は項目の略称

評定項目は，講義科目用は12項目，実技科目用は14項目からなる（表２）。回答はいずれも４段階評定とし，項目の内容に応じて選択肢が「肯定」,「やや肯定」,「やや否定」,「否定」になるように文を付した（例,「よく理解できた」,「だいたい理解できた」,「あまり理解できなかった」,「理解できなかった」）。

自由記述は，講義・実技ともに，マークシートの裏面を利用して，授業についての感想や意見，改善点を自由に記述する。

（３）調査時期と手続き

いずれのセメスターにおいても，定期試験前１～３週間以内に，実施日時の決定を各授業担当教員に一任して次の手順で実施した。①実施日の授業までに教務課で調査票一式の入った封筒を受領する，②授業時間内に10分程度の時間を割き，教示の後，調査票と回答用マークシートを配布して学生に記入させる，③終了後，評価票と回答用マークシートを回収し,封筒に厳封して教務課に提出する。

3　結果

回答に不備がみられた者を除外した結果，

全体の有効回答数と履修者数に対するその割合（有効回答率）は表１の通りである。以下，講義科目・実技科目ごとに評定項目の分析結果について述べる。分析にあたり，評定項目の選択肢は，「肯定」を４点，「やや肯定」を３点，「やや否定」を２点，「否定」を１点として数値化した。なお，自由記述については一括した処理は行わず，評価結果を各教員にフィードバックする際，記入済みマークシートも渡し，各自で検討してもらっている。

（１）講義科目の結果

１）評定項目間の関係

宮本・山口（2007）において，「満足度」（Q12）以外の11項目について探索的因子分析を行った結果，「教員の努力」（「Q７プレゼンの仕方」「Q８テキスト・配布物」「Q９教員の熱意・意欲」の３項目），「授業内容の理解」（「Q１内容の理解」「Q５教員の説明」「Q６課題・内容のレベル」の３項目），「学生の学習意欲」（「Q２内容への興味」「Q３妨害行為の慎み」「Q４意欲的取り組み」「Q10自学自習」「Q11探求意欲」の５項目）からなる３因子構造が見出された。そこで，この因子構造を確かめるために，全データを用いて確認的因子分析を行った。すべての因子間に共分散を仮定したモデルを想定し，共分散構造分析を用いてモデルの適合度を検証した。その結果，適合度指標はGFI＝.966，AGFI＝.946，RMSEA＝.068であり，十分な適合度が得られた。表３にモデルの分析結果を示す。この結果より，講義用の評定項目によって測定される授業評価が３因子によって構成されていることが確認された。

次に，３つの因子が授業の「満足度」（Q12）に及ぼす影響を検討するために，共分散構造分析によるパス解析を行った。その際，３つの因子間相関がきわめて高いことから（表３），それらの背後に「授業の総合的評価」という２次因子を仮定し，「満足度」に影響を及ぼすモデルを想定した。モデルの適合度を検証した結果，GFI＝.966，AGFI＝.949，RMSEA＝.063であり，十分な適合度が得られた。図１に示す通り，「教員の努力」「授業内容の理解」「学生の学習意欲」すべて「授業の総合的評価」に強く依存し，また，「授業の総合的評価」は「満足度」に強い影響を及ぼしている。このことから，「満足度」は11個の評定項目による評価を総合的に反映した指標といえる。

２）項目評定値の全体的な特徴

各セメスターにおける「満足度」以外の各項目の平均とSDを表４に示す。図２に示す通り，各項目の平均はセメスター間で顕著な差はなく，「自学自習」を除き，いずれも肯定的な評定値である３点近くにある。また，項目間の平均の変動パターンも４セメスターでほぼ同様であり，とくに「教員の熱意・意欲」「妨害行動の慎み」が高く，「自学自習」が低い。このことから，いずれのセメスターでも，教師，学生ともに真摯な態度で授業に取り組み，学生の理解と学習意欲も比較的良好な水準で維持されているといえる。ただし，学生には授業時間以外での自主的な学習行動は伴っていない。

３）「満足度」の全体的な特徴

各セメスターにおける授業の「満足度」について，全体，及び，学生の所属学科別（２年生以降），学年別の平均とSDを表５に示す。なお，所属学科と学年は記入漏れが多数みられた。また，学年については４年生がゼロであったが，記入漏れとともに，大半の学生が３年生までにほとんどの講義科目を履修済みであるためと考えられる。

表５をみると，全体，及び，学科別，学年別のいずれの平均も，セメスター間で顕著な差はなく，３点前後を推移しており，比較的良好といえる。僅かな差ではあるが，学科別では競技スポーツ学科の評価が生涯スポーツ学科よりも高く，学年別では06年後期を除き

表3　講義科目の評定項目の確認的因子分析の結果（標準化推定値）

項目		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Q 7	プレゼンの仕方	.73		
Q 8	テキスト・配布物	.77		
Q 9	教育の熱意・意欲	.66		
Q 1	内容の理解		.79	
Q 5	教員の説明		.80	
Q 6	課題・内容のレベル		.72	
Q 2	内容への興味			.82
Q 3	妨害行為の慎み			.51
Q 4	意欲的取り組み			.75
Q10	自学自習			.57
Q11	探求意欲			.79
	因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	Ⅰ	—	.88	.85
	Ⅱ		—	.91
	Ⅲ			—

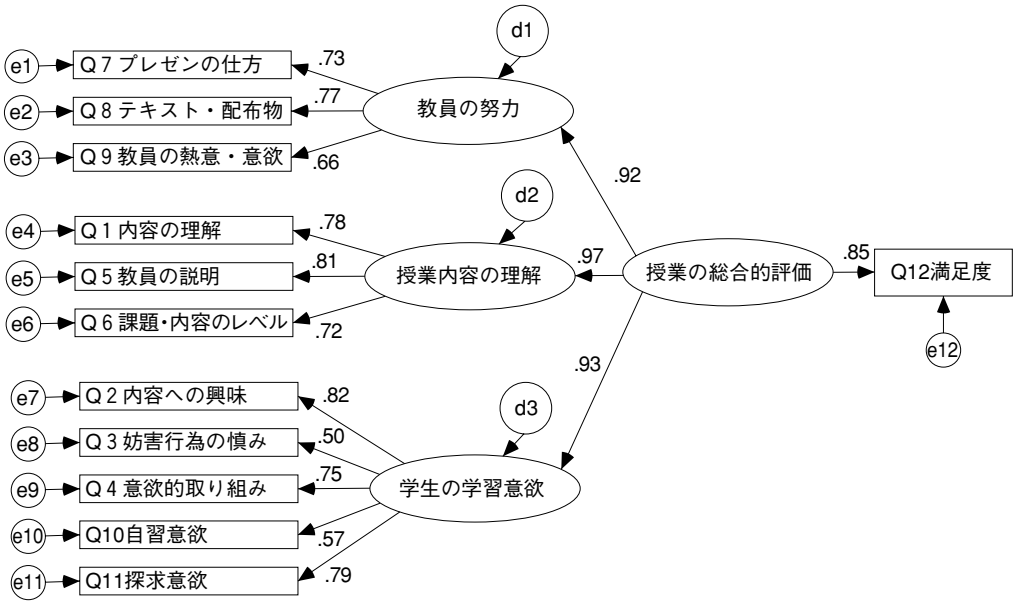

図1　講義科目の「満足度」に対する影響要因（標準化推定値）

２年生の評価が他の学年よりも低い。

同一集団の学年進行による変化をみるために，学年別の結果を，学生の入学年度別に各セメスター当時の学年に対応させて図３に示した（例えば，06年度前期2年生の平均3.01は，05年度入学者の２年生前期の結果に該当）。断片的なデータからの推測であるが，１年生時の「満足度」がもっとも高く，２年生で下降し，３年生前期で上昇，後期で下降するといった傾向がうかがえる。

４）履修人数による「満足度」の比較

履修人数を50人ごとに区分し，講義科目を「49人以下」，「50人～99人」，「100人～149人」，「150人以上」の４群に分けた。科目ごとに「満足度」の平均を求め，それらの分布を履修

表4　講義科目の評定項目の平均とSD

時期＼項目		教員の努力			授業内容の理解			学生の学習意欲				
		プレゼンの仕方	テキスト・配布物	教員の熱意・意欲	内容の理解	教員の説明	課題・内容のレベル	内容への興味	妨害行動の慎み	意欲的取り組み	自学自習	探求意欲
05年後期	平均	2.96	3.06	3.28	2.97	2.90	2.93	3.12	3.23	2.99	2.57	3.06
(N=3595)	SD	0.79	0.75	0.73	0.70	0.82	0.69	0.75	0.70	0.75	0.87	0.78
06年前期	平均	3.08	3.17	3.45	3.05	3.03	3.00	3.23	3.34	3.07	2.45	3.15
(N=3123)	SD	0.81	0.74	0.70	0.74	0.83	0.73	0.75	0.69	0.75	0.92	0.77
06年後期	平均	2.93	3.05	3.26	2.97	2.95	2.93	3.08	3.19	2.94	2.48	3.03
(N=4352)	SD	0.84	0.81	0.77	0.75	0.86	0.76	0.80	0.74	0.79	0.93	0.83
07年前期	平均	3.03	3.11	3.31	2.99	2.97	2.96	3.14	3.30	3.06	2.56	3.07
(N=4213)	SD	0.81	0.76	0.77	0.74	0.87	0.75	0.78	0.72	0.75	0.92	0.81

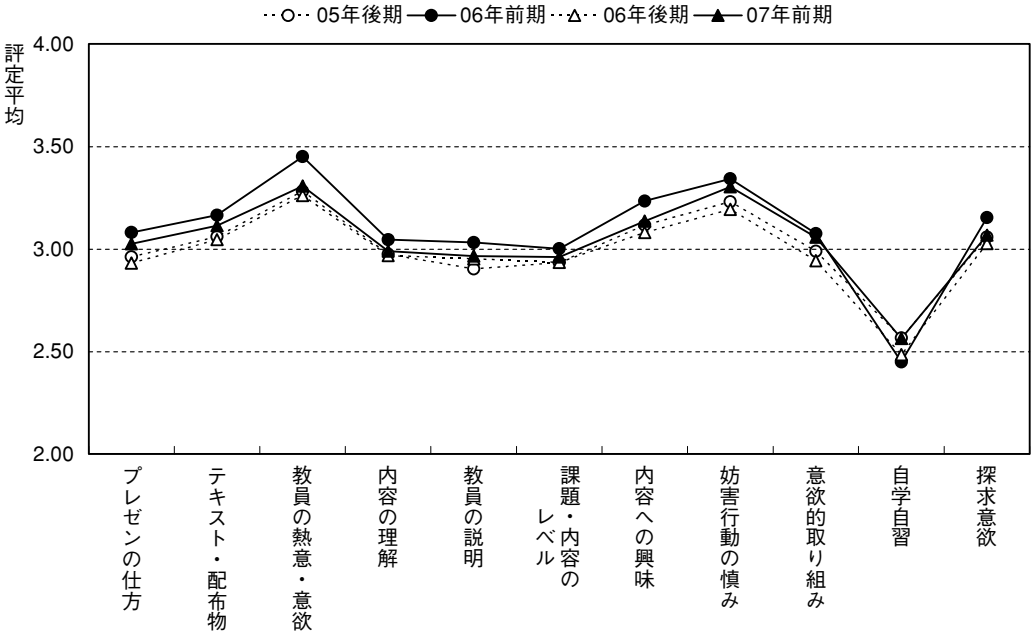

図2　講義科目の評定項目の平均

人数別に示したものが表６である。また，表６を箱ヒゲ図で表したものが図４である。なお，箱ヒゲ図の長方形の「箱」は，下辺が第１四分位数（25パーセンタイル），上辺が第３四分位数（75パーセンタイル），箱内の線は中央値を表し，箱内には当該カテゴリーに属する科目数の50％が含まれる。箱外の「ヒゲ」は最大値，最小値まで引かれ，白丸は外れ値を表す。

図４をみると，セメスターによって若干の変動はあるものの，中央値は人数が増えるに従い低下し，「49人以下」，「50人～99人」では半数以上の科目が３点を上回っているが，「100人～149人」では半数程度の科目，「150人以上」では大半の科目が３点を下回っている。このことから，履修人数が100人を超えるあたりから「満足度」の低い科目が増えはじめ，150人以上を超えると悪化するといえる。

表5　講義科目の「満足度」の平均とSD

			05年後期	06年前期	06年後期	07年前期
全体		N	3,595	3,123	4,352	4,213
		平均	2.99	3.09	2.98	3.02
		SD	0.77	0.79	0.84	0.82
学科別	生涯	N	1,615	1,119	1,286	1,317
		平均	2.89	3.03	2.97	3.00
		SD	0.76	0.83	0.80	0.83
	競技	N	1,133	1,168	1,424	1,569
		平均	2.97	3.07	3.00	3.07
		SD	0.76	0.75	0.80	0.82
学年別	1年	N	743	715	1,501	995
		平均	3.21	3.23	2.98	2.99
		SD	0.79	0.76	0.89	0.82
	2年	N	1,260	1,076	1,405	1,402
		平均	2.89	3.01	2.98	2.98
		SD	0.76	0.85	0.79	0.80
	3年	N	1,493	950	1,072	1,115
		平均	2.95	3.09	2.94	3.10
		SD	0.75	0.73	0.84	0.85

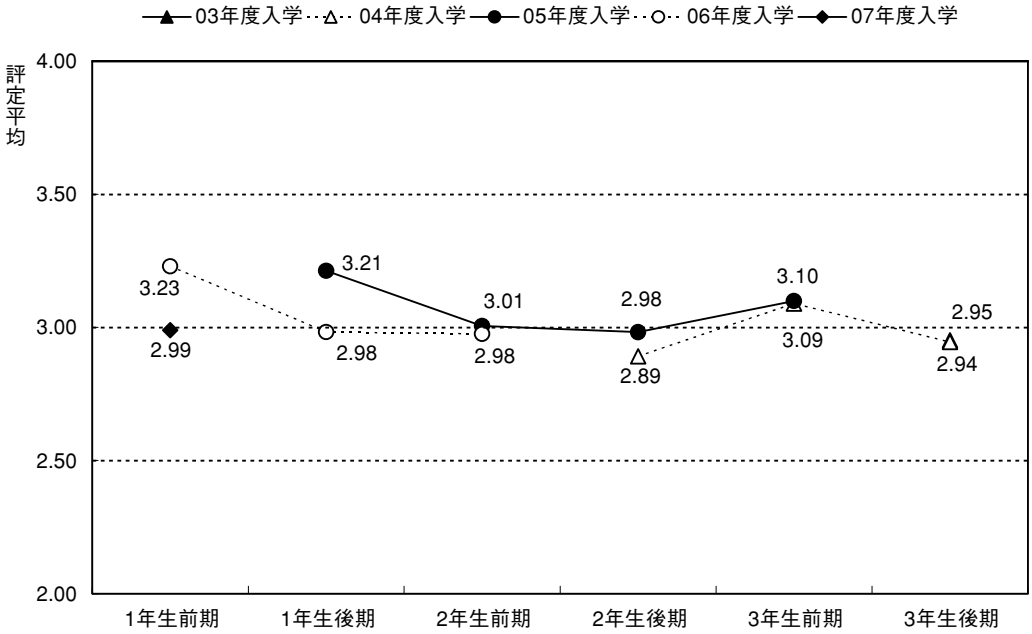

図３　講義科目の入学年度別「満足度」（平均）の学年変化

５）科目区分による「満足度」の比較

カリキュラム上の科目区分から，講義科目を教養科目（以下，「教養」），学部共通専門科目（以下，「学部共通」），学科共通科目[4]（以下，「学科共通」），コース専門科目（以下，「コース専門」），及び，教職に関する科目（以下，「教職」）の５群に分けた。上記４）と同様に，科目ごとの「満足度」の平均について，科目区分別の分布を表７，図５に示す。

表6　講義科目の「満足度」の履修人数別分布

人数	時期	科目数	最小値	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル	最大値
49人以下	05年後期	26	2.58	2.91	3.21	3.41	3.74
	06年前期	17	2.57	2.80	3.08	3.45	3.70
	06年後期	40	2.60	2.94	3.21	3.51	3.87
	07年前期	30	2.43	2.85	3.39	3.61	4.00
50～99人	05年後期	14	2.53	2.88	3.22	3.70	3.75
	06年前期	13	2.69	2.82	3.10	3.49	3.56
	06年後期	18	2.55	2.77	3.04	3.34	3.67
	07年前期	34	2.48	2.85	3.10	3.31	3.63
100～149人	05年後期	10	2.44	2.54	3.03	3.18	3.49
	06年前期	4	2.42	2.52	2.97	3.58	3.74
	06年後期	11	2.58	2.86	2.92	3.22	3.67
	07年前期	8	2.07	2.61	2.93	3.26	3.42
150人以上	05年後期	9	2.46	2.58	2.77	2.95	3.05
	06年前期	10	2.41	2.86	3.13	3.31	3.62
	06年後期	11	1.95	2.64	2.67	3.18	3.53
	07年前期	7	2.57	2.63	2.67	3.25	3.35

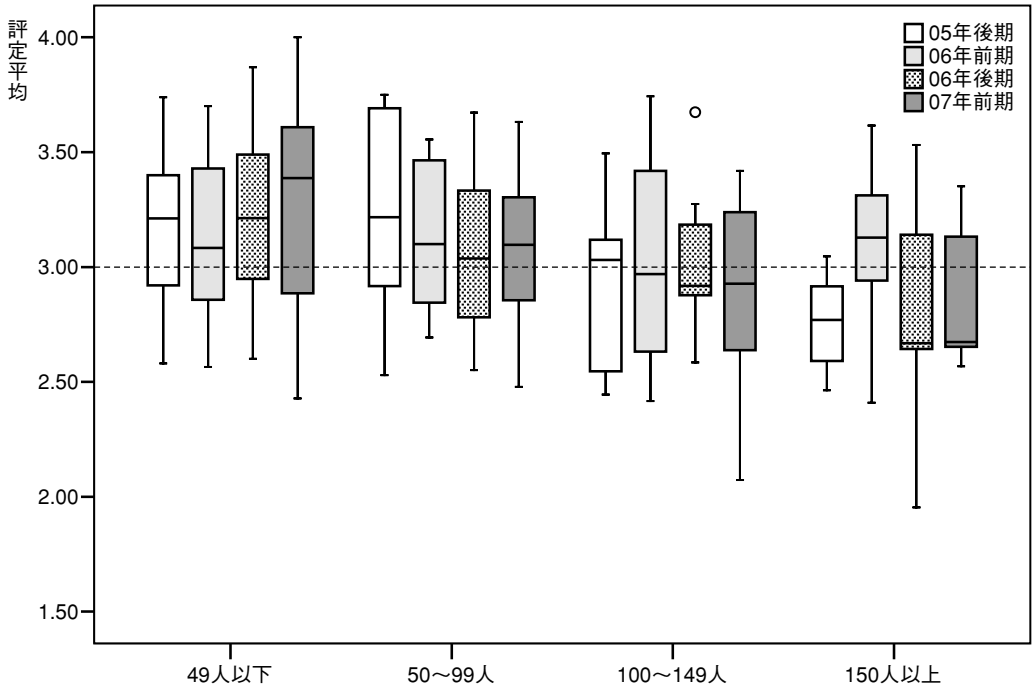

図4　講義科目の「満足度」の履修人数別分布図（箱ヒゲ図）

表7　講義科目の「満足度」の科目区分別分布

区分	時期	科目数	最小値	25パーセンタイル	中央値	75パーセンタイル	最大値
教養	05年後期	12	2.57	2.90	3.02	3.24	3.73
	06年前期	6	2.62	2.70	2.85	3.15	3.33
	06年後期	37	2.55	2.78	3.06	3.33	3.87
	07年前期	22	2.43	2.61	3.20	3.50	4.00
学部共通	05年後期	10	2.73	2.99	3.34	3.72	3.75
	06年前期	12	2.42	3.02	3.33	3.55	3.74
	06年後期	13	1.95	2.97	3.32	3.50	3.67
	07年前期	15	2.67	3.01	3.29	3.38	3.63
学科共通	05年後期	13	2.54	2.59	3.04	3.23	3.49
	06年前期	0					
	06年後期	11	2.56	2.82	2.91	3.23	3.73
	07年前期	5	2.57	2.60	2.70	2.91	3.01
コース専門	05年後期	18	2.53	2.79	3.22	3.41	3.74
	06年前期	18	2.69	2.86	3.19	3.46	3.70
	06年後期	13	2.69	3.00	3.14	3.49	3.74
	07年前期	21	2.48	3.03	3.27	3.57	3.83
教職	05年後期	6	2.44	2.46	2.81	3.05	3.13
	06年前期	8	2.41	2.58	2.85	3.14	3.20
	06年後期	6	2.58	2.63	2.72	2.98	3.22
	07年前期	16	2.07	2.64	2.89	3.16	3.58

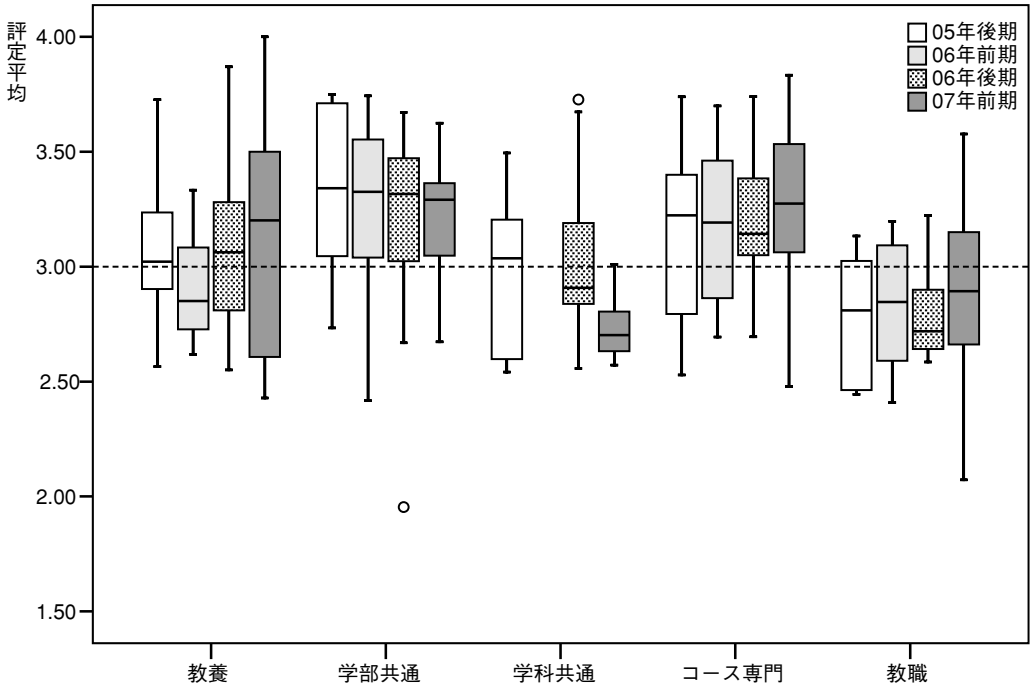

図5　講義科目の「満足度」の科目区分別分布（箱ヒゲ図）

表8　実技科目の評定項目の度数分布
（％：05年後期N=521、06年前期N=766、06年後期N=474、07前期N=1,146）

項　目	時期	4：肯定	3：やや肯定	2：やや否定	1：否定
Q１運動に関する理解	05年後期	65.6	31.5	2.1	0.8
	06年前期	65.0	32.0	2.7	0.3
	06年後期	53.8	40.3	5.3	0.6
	07年前期	60.3	36.3	3.2	0.2
Q２運動技能の向上	05年後期	49.1	45.1	5.2	0.6
	06年前期	48.4	45.6	5.0	1.0
	06年後期	47.7	46.0	5.5	0.8
	07年前期	42.7	50.2	6.6	0.5
Q３グループ活動	05年後期	65.3	30.5	3.3	1.0
	06年前期	68.8	26.6	3.9	0.7
	06年後期	63.5	30.6	4.9	1.1
	07年前期	70.2	26.1	3.2	0.5
Q４意欲的取り組み	05年後期	60.1	34.4	4.8	0.8
	06年前期	57.3	36.9	5.4	0.4
	06年後期	54.4	35.9	8.4	1.3
	07年前期	58.1	36.3	4.9	0.7
Q５教員の説明	05年後期	48.2	42.0	7.9	1.9
	06年前期	54.7	36.8	7.4	1.0
	06年後期	48.9	39.0	9.1	3.0
	07年前期	57.4	36.1	5.7	0.8
Q６課題・内容のレベル	05年後期	39.5	48.9	9.2	2.3
	06年前期	44.3	44.5	8.9	2.3
	06年後期	34.2	48.3	13.5	4.0
	07年前期	40.3	49.6	8.8	1.3
Q７施設・用具	05年後期	56.2	38.4	4.6	0.8
	06年前期	64.1	30.9	4.6	0.4
	06年後期	51.3	39.9	7.8	1.1
	07年前期	60.7	35.3	3.4	0.5
Q８板書・資料	05年後期	31.3	51.8	15.2	1.7
	06年前期	42.4	43.3	12.9	1.3
	06年後期	31.0	51.7	15.4	1.9
	07年前期	36.7	47.8	12.9	2.5
Q９教員の熱意・意欲	05年後期	61.4	33.8	3.8	1.0
	06年前期	65.8	29.9	3.4	0.9
	06年後期	57.6	34.8	6.1	1.5
	07年前期	67.2	30.4	2.1	0.3
Q10教員からの助言	05年後期	37.4	44.7	14.6	3.3
	06年前期	35.6	45.2	14.2	5.0
	06年後期	37.8	41.6	15.8	4.9
	07年前期	42.3	42.8	12.2	2.7
Q11安全面の配慮	05年後期	52.4	37.6	8.6	1.3
	06年前期	53.9	39.6	5.9	0.7
	06年後期	48.3	42.2	8.2	1.3
	07年前期	55.3	38.3	5.8	0.5
Q12授業の工夫	05年後期	50.7	41.1	6.9	1.3
	06年前期	49.6	40.2	8.6	1.6
	06年後期	42.8	42.8	11.6	2.7
	07年前期	50.0	42.0	7.2	0.9
Q13運動時間	05年後期	66.4	28.0	5.0	0.6
	06年前期	71.1	24.9	3.4	0.5
	06年後期	57.8	33.1	7.6	1.5
	07年前期	67.7	28.8	3.2	0.3
Q14満足度	05年後期	57.2	37.2	4.4	1.2
	06年前期	57.8	35.1	5.2	1.8
	06年後期	51.3	39.0	6.8	3.0
	07年前期	58.0	35.6	5.5	0.9

図５をみると，いずれのセメスターでも，中央値は「学部共通」,「コース専門」が他の３つの科目群よりも高く，大半の授業が３点を上回っている。一方,「教養」では半数近くの科目が３点付近にあり,「学科共通」,「教職」では相当数の科目が３点を下回っている。とくに「教職」の中央値は３点を超えることなく推移し，さらに，07年度前期では分布の散らばりが大きくなり，科目間差が広がってきている。以上のことから,「学部共通」,「コース専門」の「満足度」は高く，他の科目群，とりわけ「教職」は低い。

（２）実技科目の結果

表８は評定項目の度数分布（%）をセメスターごとに示したものである。セメスターにかかわらず，すべての項目で４（肯定）と３（やや肯定）に回答が集中し，両評定値だけで約８割を占めている。「満足度」（Q14）は，４が５割以上になり，３とあわせると９割以上にのぼる。このように，学生の実技科目に対する評価は総じて高く，満足しているといえる。項目ごとにみると，若干ではあるが,「Q８板書・資料」と「Q10教員からの助言」の２項目が他の項目に比べて否定的な回答が多い。

4　考察

本稿の目的は，2005年度後期～2007年度前期に実施された授業評価アンケートについて，講義科目，実技科目それぞれの全体的な結果を要約し，授業全般の特徴，及び，改善点を探ることであった。

講義科目については，まず，11個の評定項目が「教員の努力」,「授業内容の理解」,「学生の学習意欲」という３つの側面（因子）に要約できることが確認できたが，最終的には１因子に収束し,「満足度」に強く影響することが明らかになった。このことは，学生が授業の諸側面を弁別的に評価するのではなく，一体化して評価する傾向が高いことも示している。すなわち,「満足度」の高い（低い）授業は,授業のあらゆる面の評価が良い(悪い)。このように,本授業評価アンケートの結果は,授業の総合的な評価として意義づけられるが，授業のどのような側面が「満足度」の向上に寄与するかといった分析的な検討を行うには十分な情報とはいえない。授業評価の結果を授業改善に結びつけていくためには，調査票の抜本的な見直しを図る必要があろう。履修科目のほぼ全ての評価を行う学生の負担を軽減するためにも，評定項目の精選を図ることが急務である。

各項目の評定平均をみると，各セメスターともにほぼ同じパターンになっており，学生の頑健な評価傾向がみられた。とりわけ，学生の「自学自習」が著しく低い水準にある。「内容への興味」「探求意欲」等の項目が良好な水準を維持していることから，こうした学習意欲を実際の行動へと移行させるための指導・援助が，講義科目全般の課題といえる。その際，クラブ活動への傾倒など，本学学生の特性を踏まえての工夫が望まれる。

「満足度」の４セメスターを通しての推移をみると，講義科目全体，及び，学生の所属学科，学年別のいずれにおいても大きな変動はなく，良好な水準を維持している。ただし，入学年度別にみると，２年生時にやや低下する傾向がうかがえた。断片的なデータからの推測なので今後の経過をみて判断しなければならないが，カリキュラムの改善にとって留意すべき点といえる。

また，科目ごとの「満足度」の分布を履修人数別に比較した結果，各セメスターともに履修人数が100人を超えるあたりから「満足度」の低い科目が増えはじめ，150人以上を超えると悪化することが明らかになった。時間割編成，教員数，教室数等の制約の中，すべての授業を100人以内にすることは困難であるが，少なくとも，150人以上の授業は解消すべきであろう。

同様にして，カリキュラム上の科目区分で

比較した結果，各セメスターともに，「学部共通」，「コース専門」の「満足度」は高く，「教養」，「学科共通」，「教職」は低い。ただし，これは全般的な傾向であり，いずれの科目区分でも「満足度」が良好な科目，あるいは，問題のある科目が存在することに留意すべきである。とはいえ，「学科共通」と「教職」は全般的に「満足度」の低い科目が多く，個々の教員の努力に一任するのではなく，両学科，教職課程といった組織単位での原因究明と立て直しを図るべきである。

実技科目については，セメスターにかかわらず一貫して全項目ともに高い評価で，専門性の高い教員によって，学生の特性やニーズに適合した授業が実践されていることが明らかになった。ただし，講義科目同様，学生は一次元的に授業を評価しており，授業の質の一層の向上，あるいは，潜在的な問題の発見のためには，学生の回答負担を考慮しながら，評価票や実施方法の改善が必要である。

以上の通り，４セメスターに渡って授業評価アンケートが全学的に実施されてきたが，その成果として，授業全般の大幅な改善がなされたとは言い難い状況といえる。したがって，今後は，授業評価の結果を授業改善にどのように活かしていくが課題である。具体的には，①すでに指摘してきた通り，評価票や評価方法を見直し，授業改善に役立つ情報を得ること，②収集された情報を積極的に活用したFD（Faculty　Development）活動を実施することである。とくに②の点は，現在まで外部講師による講演会の実施だけなので，すでに多くの大学で実施されている，教員相互の授業参観，授業方法についての研究会等を推進していくべきであろう。

注

1）「卒業研究」の評価は，宮本友弘，豊田則成，松岡宏高によるワーキング・グループによって実施された。

2）2007年度FD委員会は，松本格之介（委員長），小松崎敏（副委員長），宮本友弘，佐々木直基で構成された。

3）「スポーツ学入門」「生涯スポーツ入門」「競技スポーツ入門」「教養演習Ⅰ」の評価票作成は，飯田稔学長によって組織された初年次教育に関する学内共同研究チーム（松岡宏高（研究代表者），新井博，若吉浩二，宮本友弘，黒澤毅，林綾子）が担当した。

4）学科共通科目は２学科のそれぞれで設定されているが，ここでは両学科の科目を込みにした。同様にコース専門科目は６コースの科目を込みにした。

引用文献

宮本友弘・山口満（2007）　びわこ成蹊スポーツ大学における授業評価アンケート結果の報告―2005年度後期・2006年度前期の場合―，びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，４：pp. 153-162.